

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	SM i Dデイサービスにじ 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 12日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 12日		～ 令和8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	清潔で快適な環境づくり	日常的に掃除や整理整頓を行い、床や備品の消毒、手洗いの徹底など衛生管理に努めている。子どもが安心して過ごせる空間づくりや収納の工夫を通じ、快適で安全な支援環境を維持している。	日常清掃や整理整頓を継続し、フロアや作業スペースの衛生に努めていく。観葉植物や花を飾るなど、子どもや保護者の方、来客が心地よく過ごせるよう雰囲気づくりも工夫し、安心して過ごせる快適な環境づくりに努める。
2	子ども一人ひとりに合わせた個別支援	看護師、理学療法士、作業療法士、保育士などの専門職が一人ひとりの健康観察を行い、体調に合わせて柔軟な支援を行っている。安全・安心を最優先にしながら子どもがのびのびと楽しく過ごせるように支援を行っている。	子どもたちへの支援をより、安心・安全に行うため、専門職の職員を増やしていくことを検討する。併せて研修を通じて職員の知識や対応力を高め、柔軟で質の高い支援体制を整える。
3	保護者との関わりを大切にす姿勢	保護者の方には連絡ファイルを用いてその日の様子を伝えていく。必要に応じて電話またはLINEでやりとりするなど、日々の状況をこまめに共有している。相談しやすい雰囲気づくりや情報提供を工夫し、安心して子どもを預けられる環境の維持に努めている。	連絡ファイルを用いて、その日の活動や様子を継続してお伝えしていく。保護者の方に安心して子どもを預けられるよう、信頼関係の構築に努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の情報共有・振り返りの不足	開所して間もないこともあり、日々の業務や送迎対応を優先する中で、一日の支援内容や子どもの様子を振り返る時間が十分に確保できていない。	連絡ノートを活用し、利用児の様子や共有すべき事項を記録し、支援の質の向上と職員間の連携を図る。子育て中の職員や家庭の事情があるため終業後のミーティングが難しいため、状態変化のあった利用児は朝の送迎前に申し送りを行っている。
2	より過ごしやすい環境づくり	スペースが限られていることや一部に段差があるなど、建物の構造上の制約があること。	室内環境の確認を行い、段差や動線への配慮など環境面の見直しを進めていく。また、家具の配置やスペースの活用方法を見直し落ち着いて面談できる心地よい環境をつくれるよう整備していく。
3	重症心身障害児・医療的ケア児への理解や経験を深めていくこと	重症心身障害児や医療的ケア児への支援について、職員が経験を積みながら体制を整えている段階にある。	オンライン研修・実地研修などさまざまな学びの機会を通して、職員間での学びあいを重ねながら、職員全体で安心して支援できる体制づくりに取り組んでいく。